

VRで災害現場疑似体験

鳥取・吉備
総合電設 社員が研修会

消防設備工事などを手がける吉備総合電設(鳥取市田園町3丁目)は30日、災害現場を仮想現実(VR)で疑似体験する研修会を同社内で実施した。火災や地震など、実際の災害現場さながらの臨場感あふれるリアルな映像が眼前に映し出され、社員らはこれまでとは違う視点で防災意識を高めた。



火元をVRで間近に体験する参加者=30日、鳥取市田園町3丁目の吉備総合電設

VR映像は、同社と縁のある能美防災(東京都)が制作。身近な災害を体験するツールとして今年の春から貸し出しサービスを開始しており、鳥取県では同社が初めて導入した。同社はイベントなどでの活用を視野に入れている。

体験会には社員16人が参加。参加者は頭部に装着するディスプレイ装置と二つのコントローラーを使用し、パソコンからの発火が原因の火災現場や、地震によって物が散乱する室内を歩くなど、オフィスやビル街を舞台にした五つのシーンをVRで体験した。

山下誉議社長は「防災に関するイベントのほか、関わりのある点検先や町内会での活用も展開できたら」と意気込みを語った。

(荒尾京香)

宅本社HPに動画